

2009年3月期決算について

2009年5月15日
成田国際空港株式会社

1 航空取扱量について

区 分	2007年度	2008年度	増 減		2009年度 見 通 し C	増 減 %
	実 績 A	実 績 B	数 量 B-A	% B/Ax100		
航空機発着回数(万回)	19.4	19.1	△0.3	98.6	19.4	101.5
航空旅客数(万人)	3,539	3,265	△274	92.3	3,118	95.5
航空貨物量(万トン)	222	188	△ 34	84.6	191	101.6
給 油 量(万kl)	562	521	△ 41	92.7	498	95.6

(1) 2008年度の実績

- 航空機発着回数は、貨物便の減便等により減少。機材も小型化
- 航空旅客数は、燃料サーチャージによる割高感や世界的な景気の後退により減少
- 航空貨物量は、世界的な景気の後退、円高による輸出の減少等により減少
- 給油量は、発着回数の減少や就航機材の小型化により減少

(2) 2009年度通期の見通し

- 航空機発着回数、航空貨物量はやや持ち直すものの、世界的な景気の低迷により航空旅客数、給油量は前期比で減少

2 連結決算について

(単位：億円)

区 分	2007年度	2008年度	増 減		2009年度 見 通 し C	増 減	
	実 績 A	実 績 B	金 額 B-A	% B/Ax100		金 額 C-B	% C/Bx100
営 業 収 益	1,998	1,894	△ 103	94.8	1,781	△ 113	94.0
営 業 利 益	328	234	△ 94	71.3	149	△ 85	63.6
経 常 利 益	235	141	△ 93	60.1	53	△ 88	37.4
当 期 純 利 益	109	59	△ 49	54.5	17	△ 42	28.5

(連結の範囲) 連結子会社 21社、持分法適用関連会社 1社 (前期末と同数)

(1) 経営成績の概要

- ① 営業収益は1,894億円(前期比103億円の減)、営業利益は234億円(同94億円の減)、経常利益は141億円(同93億円の減)、当期純利益は59億円(同49億円の減)で減収減益

- 営業収益は、空港運営事業では、就航機材の小型化・低騒音化の一層の進展により、空港使用料収入、給油施設使用料収入が減収となり、また、燃油サーチャージの課金や世界景気の後退により、航空旅客数が減少し旅客サービス施設使用料収入が減収となった。
リテール事業では、航空旅客数の減少に加え、消費マインドの低下や円高による買い控えにより、テナントの構内営業料収入、子会社の物販・飲食収入が減収となった。
施設貸付事業では、航空会社が貨物上屋の一部返還を行ったことなどにより、土地建物等貸付料収入が

減収となった。

以上の結果、前期比 103 億円の減収。

- 営業利益は、営業収益が大幅に落ち込んだことに加え、営業費用（営業原価、販売費及び一般管理費）において、前年度の年金資産の運用悪化による退職給付費用の増加や平行滑走路北伸に係る移転補償費の増加、燃料高騰に伴う水道光熱費の増加などの増加要因があったものの、経費全般に亘るコスト削減や子会社の物販・飲食収入の減少に伴う商品売上原価の減少などにより、営業費用は前期比 9 億円の減少となり、前期比 94 億円の減益。
 - 経常利益は、金利の低下に伴う支払利息、社債利息の減少等により、前期比 93 億円の減益。
 - 当期純利益は、特別利益に国道 51 号線の付替に伴う固定資産受贈益（5 億円）を計上。一方、特別損失に佐原中継放送局の売却に伴う固定資産売却損（3 億円）を計上した結果、前期比 49 億円の減益。
- ※ 航空・非航空収入割合は 52 : 48（前期 52 : 48）

（2）財政状態の概要

- 資産では、平行滑走路北伸やインライン関連工事、成田新高速鉄道関連工事などで 748 億円の設備投資を実施。この結果、資産合計は前期末より 196 億円増加の 1 兆 118 億円。
- 負債では、社債の発行などを行った結果、負債合計は前期末より 161 億円増加の 7,881 億円。当期末の有利子長期債務残高は前期末より 178 億円増加し 5,718 億円。平均金利は前期末より 0.06 ポイント下がり 1.57%。
- 純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前期末より 35 億円増加の 2,237 億円。自己資本比率は 0.1 ポイント減少して 21.1%。

（3）キャッシュ・フローの状況

フリー・キャッシュ・フローは△94 億円（前期比 270 億円の減）

- 営業 C F は、税金等調整前当期純利益の減少などにより 487 億円（前期比 110 億円の流入減）
- 投資 C F は、固定資産の取得による支出の増加などにより△582 億円（前期比 159 億円の流出増）

（4）2009 年度の連結業績見通し

営業収益は 1,781 億円（前期比 113 億円の減）、営業利益は 149 億円（同 85 億円の減）、経常利益は 53 億円（同 88 億円の減）、当期純利益は 17 億円（同 42 億円の減）で減収減益

- 営業収益は、世界的な景気の低迷により就航機材の小型化・低騒音化や航空旅客数の減少が継続することなどにより減収
- 営業利益は、引き続き委託関係費などのコスト削減を図るものの、営業収益の減収により減益
- 当期純利益は、平行滑走路の北伸関係工事が終了することにより特別損失は減少するものの、営業収益の減収により減益

※ なお、実際の業績は、経済情勢等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。